



たいしし通信

下関の戦跡シリーズその2ということで、前田の砲台跡や火の山の要塞跡等が普通なのでしようが、それでは面白くない(?!)ので、今回は住吉神社を取り上げることとします。

◆艦内神社

海自出身の方はご存知だと思いますが、護衛艦内には神社があります。これは帝国海軍時代からの伝統で、艦内神社と呼ばれます。基本的には大きい神棚程度で、当然専任の神職もいません。設置についての規則等は全く基本的に関係者の意向によっており、戦後の護衛艦の艦内神社も乗員等の私幣によって祀られ、このため政教分離問題には抵触しません。

どの神社を祀るかについても規定はなく、帝国海軍の戦艦等は専ら艦名に関わりの深い土地の神社が祀られ、複数ある神社から一宮が選定されていきました。一宮とは令制国(律令制に基づいて設置された地方行政区分)一宮を指し、地域の中で最も社格の高い神社で、次を二宮、さらにその次を三宮と呼び、下関を含む長門国では一宮が住吉神社、二宮神社が忌宮神社、三宮神社が龍王神社となっていて、下関も含めて、一宮がそのまま地名となっているところも多くあるようです。

下関の住吉神社は、全国の住吉神社の中でも大阪、博多の住吉大社とあわせて日本三大住吉のひとつとされ、本殿は国宝に、拝殿も重要文化財に指定されています。

◆戦艦長門

戦艦長門は大日本帝国海軍の長門型戦艦の1番艦で、長門国を名前の由来に持ち、戦前、戦中は日本海軍の象徴でした。しかし戦艦と言えば大和、武蔵では? と考える方も多いと思います。

実は大和、武蔵は戦時中、存在そのものが極秘だったため知る人もほとんどおらず、戦前と戦中には長門、陸奥こそが日本海軍を代表する戦艦として多くの国民から親しまれていました。

長門はまた、稼働可能状態で生き残った唯一の帝国海軍戦艦でもあり、米軍接收後、ビキニ環礁での原爆実験に標的艦として投入され、二度の核実験により沈没しました。

その戦艦長門は、長門国一宮である住吉神社を祀っていたのです。

◆住吉神社の戦跡は?

戦艦長門の戦跡は、旧母港である横須賀臨海公園の軍艦長門碑、主に市民団体の寄付により建立された愛知県岡崎市東公園にある海の記念碑及び戦艦長門副錨があります。実は肝心の住吉神社には碑がありません。しかし調べたところ、令和3年8月に長門慰霊顕彰祭が催され、菅野泰紀氏による鉛筆画が奉納されました。これはこれで喜ばしいことですが、住吉神社にも恒久的な記念碑を建立して欲しいところです。

◆編集後記

護衛艦の艦内神社について触れましたが、実はすべての海自航空機にも安全祈願のお札が祀られており、毎年明けには部隊指揮官等が制服で神社に赴き、新たなお札とともに安全祈願のお祓いを受け、その年の新たなお札をまた全ての航空機に祀ります。小月の小さな練習機も同じで、こちらは赤間神宮にお参りしています。今も続いている習わしですが、ただ、いわれなきトラブルとならない様、この間は公務ではなく、休暇扱いでのお参りとなるそうです。なんだからなあ。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあります。特に規則等に定めているもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。